

2015年3月期決算 決算説明会Q&A要旨

日本水産株式会社
経営企画IR室
広報IR課

Q. ファイン事業の今期の計画について、営業利益のプラス要因とマイナス要因を教えてください。

A. 変動要素が様々あり、医薬原料、機能性食品等、損益が大きく変わる計画にはなっていない。医薬原料については、マーケットは2年間大体107-108%程度で伸びているが、後発品の影響もあるので、前年比で2億円程度売上を落とし、限界利益が1億円程度落ちる計画。機能性原料は、前年比で約9億円程度売上を伸ばし、限界利益を2億円程度伸ばそうと考えている。機能性食品は、新しい機能性表示制度も始まるので、売上で約10億円プラスを目指して、限界利益も3億円程度改善できたらと考えている。医薬は少し落ちるが、その他でカバーしようと言う計画。(なお、本回答における増減数値は、2016年3月期の予算と予算策定時の2015年3月期の着地見込みの差。)

Q. 医薬原料の減益幅は限界利益ベースで1億円の減益で済むのか。

A. 前年度は後発品促進策の影響により大きく利益が減り、今後どうなるかは見えないところはある。ただ、当社としては、EPA 医薬品マーケット全体のパイは伸びており、また、原料も簡単に作れるものではないので、最後には、高純度EPAをどの程度のコストで作れるかの競争になるだろうと予想している。

Q. 鮭鱒、えびの市況の見方について、天然物の見通し等も併せて教えてください。

A. 鮭鱒については、2014年度が一番大きな要因は、8月にロシアが禁輸措置を発表した事で、相場が緩みかけていたが、元に戻った。2014年の12月までは結構良かったが、2015年の1-3月は、相場がおかしくなっている現状。2015年度は、天然では、アラスカのベニザケが大豊漁予想であり、アラスカではマスも大豊漁予想。7月末から8月初めに来るのが、極東ロシアの鮭鱒。ベニザケは、昨年比で若干漁獲量が減るという予想。マスは極東も豊漁予想。その後は、カナダのBC州のベニザケ。これに関しては、ま

だ予想が出ていないが、今年は4年に1度の豊漁年ではないので、普通だろうと予想している。ベニザケは、アラスカの7月4日の独立記念日に向けて、現在注目しているところ。養殖は、ノルウェーとチリが中心で、例年と比べて大きな増産・減産に関する見通しは今のところない。チリの火山噴火の影響が出るのは2年後で、今年は影響は無い。死んでいるのは小さな魚であり、今後いくつかの要因を見ながら対応していかなければならない。ロシアの禁輸は1年間だったが、ロシア政府がどういう態度に出てくるのかを注目している。ちょうどベニザケ生産の真ん中に当るので、これで市況が動く可能性もある。日本は、それに加えて為替影響も大きく予測が難しいので、一つ一つの生産や様々なイベントを見ながら、慎重に買い付けをして行きたい。

えびの中心は養殖で、2年前に魚病で大きな痛手を受けたが、昨年はまずまずの成果。今年も魚病の話は聞いていないので、供給量としてはある程度潤沢に出てくるだろうと考えている。えびに関しては、アメリカ、ヨーロッパは強いので、日本は為替の影響もあり、買い負けの状態が続くと見ている。

Q. キャッシュフローの計画について教えて頂きたい。また、フリーキャッシュフローが約20億の計画だが、計画にぶれが生じて仮に5億になった場合に配当計画に影響があるのか教えていただきたい。

A. 今年度のキャッシュフローについては、営業CFで279億円、投資活動CFで▲257億円で、若干借入金の返済に回すという計画である。前年と比べると大きな投資になるが、中計で発表した通り、過去3-4年は色々な整理を中心にして来たが、いよいよ成長に向けて動きたいと言うことで、投資活動CFを少し多めにしている。

完成ベースでは、日水物流の大阪の物流センター、ニッスイ個別ではファインケミカルの新工場、食品事業のチルド会社が船橋工場を建てると言ったところがある。

この2年間、事業撤退など様々な再建策をやって来て、無配とさせていただいた。株主様にはご迷惑をおかけしたが、何とか利益が確保できたので、前期は3円の復配を発表した。将来的には、3割程度の配当はきちんと出来る会社になりたいが、今の状況では、いきなり3割は難しいので、新中計の3カ年では10-15%で配当を考えて行きたいと思い、発表している。復配になったばかりで、もう増配が可能なのかと言う疑問もあるだろうが、4円の配当なら、何とかコミットメントした10-15%の最低線になるので、ここは守って行きたい。

Q. 海外の食品事業（北米・ヨーロッパ）について、売上高について減収（北米）又は横ばい（ヨーロッパ）になっているが、売上の計画内容について教えていただきたい。

A. 北米については、**Gorton's** は、家庭用冷凍食品で昨年競合と激しい競争をし、シェアを落とした。今年度は、約**2**倍の販促費を使って、シェアを奪還しようとしており、少し利益が圧迫されている。**King&Prince** は、昨年ようやく黒字化し、**2**年連続で黒字化を目指して頑張っているが、利益を大きく出す計画にはなっていない。1-4月までが終わったが、**Gorton's** は予算通りで、**King&Prince** に関しては、勢いはそのまま続いている。

欧州に関して。**Cite Marine** は、買収以降、非常に順調に売上と利益を伸ばして来た。引き続き好調さは続いているが、水産物市況の高まりで、利益面が若干厳しそうだ。規模は大きくないが、小さな会社を買収したこともあり、そういったコスト等を鑑みると、昨年が大変良かっただけに、今年は少し厳しい計画になっている。

Q. 機能性食品表示制度が開始されたが、**EPA** のバルク販売の見込み、または現在の手応えについて教えていただきたい。

A. 機能性食品表示制度は、4月から届出が始まり、一番早いところでは、6月から商品が出てくるという状況である。当社は機能性原料として、**EPA** ではかなりのシェアを持っており、現状は、当社から原料を買い始めている取引先もある。また、例えば、**EPA** を食品に添加したいなどの話も進めており、現段階では計画通りにいくと考えている。商品は、下期から出てくるものが多いと予測している。

Q. ニッスイ個別の食品事業につき、原料高の影響と値上げについて説明があったが、値上げについては予算に織り込まれているということなのか教えていただきたい。

A. 今年度、ニッスイ個別で見ると、為替の影響で約**22**億円の悪化要素があり、また、すりみ原料アップの影響額は約**10**億円あり、この二つの要素が大きい。値上げについては、昨年**9**月、今年**1**月、**3**月と**3**回に分けて、各カテゴリーごとに実施しており、今年度**1**年間の効果が約**16**億円と見ている。この差額約**16**億円程度を、増収、米原料が一時期安かった効果、工場コストダウン等で埋めていき、状況を見ながら、値上げも検討するつもりである。予算にはそういった形で織り込んでいる。

以上